

株式会社法研
プレミアサポートセンター

がん専門相談サービス「プレミアサポート」の利用実績を学会発表
第31回日本看護科学学会学術集会
テーマは“第三者機関の看護師による医療相談の現状”

株式会社 法研（代表取締役：東島 俊一）は第31回日本看護科学学会学術集会（2011年12月2～3日に高知市文化プラザかるぽーとにて開催）で、プレミアサポートを利用された方の状況について分析した結果を「第三者機関の看護師による医療相談の現状」というテーマで発表しましたのでお知らせいたします。

弊社はアフラック（アメリカンファミリー生命保険会社、日本における代表者・社長：外池 徹氏）の「がん保険」の被保険者※1向けに2007年9月からがん専門相談サービス「プレミアサポート」を提供しております。

今回の研究ではサービスの提供を開始した2007年から2011年10月末まで計912件の相談に関して分析を行いました。その結果、治療を開始する前の時期の相談が約7割、「自分に合った治療法の選択」の相談を希望する方が約9割であることや、相談の多い疾患は乳がん（19.2%）、前立腺がん（17.7%）であること、家族と面談に参加するケースが半数以上であることなどが明らかになりました。これにより、第三者機関の看護師が訪問して行う相談は病院内にある相談室などとは異なる、独自の傾向を示すことがわかりました。

がん患者は、告知後間もなく命や人生に関わる治療法の決定をしなければなりません。医療技術の進歩による選択肢の増加や患者主体の医療は、患者にとって有益である半面、不安や葛藤を生みます。しかし、医療者の多忙な現状を前に患者はその思い悩む気持ちを吐露することを遠慮してしまい、医療者とのコミュニケーションが不足しがちです。また、医師の治療法に疑問を投げかけることが医師との信頼関係を害するものだと考える患者も少なくありません。ここに「本音を語れる場」「納得がいくまで語れる場」である第三者機関への社会的ニーズが存在していたことが今回の結果に表れたと考察しました。

患者は、治療への疑問や不安が解消することで病気に立ち向かう力を得ます。

おかげさまでプレミアサポートは2011年12月に利用件数1,000件に到達しました。これからも患者の支えと医療機関との橋渡しになることを願いながら、ひとりひとりに寄り添ったサービスを提供してまいります。

以上

※1 アフラック所定のがん保険（＜アフラックのがん保険f（フォルテ）＞、＜生きるためのがん保険Days（デイズ）＞）のうち、一定の条件を満たす契約の被保険者。